



アーシャ派遣現地職員と短期派遣専門家 ゴーダマ・ブッタの修行の地・ビハール州ラジギールにて

## 人を育てるための社会環境づくりを

アーシャ=理事 インド現地プロジェクト代表 三浦 照男

ゴータマ・ブッタ（お釈迦様）が生まれた2500年前、北インドは自由思想が謳歌され「人間とは、苦悩とは、命とは、死とは」といった誰もが抱く根本的な疑問に対する哲学、倫理観を体系的に生み出す高い文化を生み出した地域でした。事実、ヒンドゥー教の倫理観や哲学とは一線を画する仏教やジャイナ教が同時期且つ同地域で派生したのです。2300年前の強大な王国を支配したアショカ王は仏教に帰依し、インド各地に仏教を普及させるために僧院をたくさん作りました。仏教はインド各地に広まっていきました。しかし、後の支配者に迫害され、更にイスラム教の支配者によって僧院は徹底して破壊されていったのです。その廃墟を私たちが事業対象地としているカンジャサ村の郊外に見ることができます。

悠々と流れるヤムナ河に立ち、その当時のことを思い

浮かべる時、「ヒンドゥー教から仏教に回心した多くの者は仏の教えを守り、新たな倫理観、価値観を会得し、新たな社会づくりを目指したのだろう」という感慨に耽るのです。当時は現在より厳格な身分社会、差別社会であったと推察されます。それにも拘らず多くの改宗者があつた。その改宗が許された社会環境があつたと思われま

す。  
現在はどうか。残念ながらそのような状況ではないように思えます。楽観的に簡単にお金を得ること、エンジニアか医者、願わくば収入が安定した公務員になることが最上の至福と考えている者があまりにも多いのです。また農村で働くことに人間的な意義、意味を見出し得ないでいる悲観的な若者があまりにも多いのです。

(次ページ下段に続く)